

小林正人「『景気循環』研究序説 ―資本主義経済において景気循環は必然的か―」

### 第3章 景気循環と設備投資競争に関する理論的説明

#### 問題提起

「つまり市場メカニズムというような『自動調整機構』がかかわる余地はない」(p.30)とあるが、なぜ生産能力の縮小には市場メカニズムが関わらないのか。

#### 選んだ理由

本来は景気循環の一環であるはずの生産能力の縮小に市場メカニズムがあまり影響していないということは、この論文のテーマにおいて、また景気循環について考える上で非常に重要なポイントになると考えたから。

#### A グループ

市場での価格変動によって需要と供給を調整させる仕組みが市場メカニズムであるが、縮小スパイラルに入った需要に対して生産能力をどれだけ削減すればいいのかは競合他社の行動などの不確実な事情が多いため、経営者の苦痛の需要予測によって削減するので、市場メカニズムは生産能力の縮小に関わらない。

#### B グループ

縮小スパイラルに入った需要に対して生産能力の縮小は、競合他社の行動などの不確実な事情が多く、個々の経営者が需要予測から利潤喪失の規模と今後の稼働率を考慮し、縮小するしかないから。

#### C グループ

縮小スパイラルに入った需要に対して、すべての企業が同率で稼働率を引き下げることはなく、個々の経営者が苦痛の需要予測により、利潤の喪失の小ささをめぐる競争が進み、不確実な要素が多いため、生産能力を最適解へと導く市場メカニズムはない。

#### D グループ

市場メカニズムは需要と供給が会う前に生産設備の生産能力が需要を超えているかどうかを知らせるシグナルではないため、需要が縮小スパイラルに入った場合、すでに行われた設備投資または未償却の固定資本がもつ生産能力は、苦痛の需要予測によって経営者が意識的に削減するしかないものであるから。